

挿話1

PMDとものごとを理解するときの頭の振り方

私たちは、ものごとを理解するときには頭を縦に振ります。(ほんの少しの民族には例外があります) 頭を振るからには上へ先に振るか、下へ先に振るかのいずれかをしなければ、頭を振り始めることはできません。

そのとき、私たちは頭をどちらの方へ先に振り出しているのでしょうか？

よく観察してみると、答えは、上の方へ振り出す場合も下の方へ振り出す場合のいずれもがあります。

即ち、目的を理解したときは「はい、そうです」と頭を下の方へ振り始めますし、手段とか意味を理解し、それが目的につながっていることを理解したときは「なるほど」と言いながら頭を上の方へ先に振っています。

このことは、私たちが、この目的と手段の関係を瞬間的にかぎわけて、頭を上へ先に振り始めたり、下へ先に振り始める潜在的な能力を持っていることを示すことになります。

ということは、どういうことでしょうか？

仮説的な説明になりますが、話題(話していることのテーマ)に対し、私たちは目的と感じたことを頭の上前のところに記憶するべく押し込むために、慣性をつけて頭を下の方に先に振り、また、意味とか手段と感じたことを頭の後下の方に記憶するべく、押し込むために頭を上の方に先に振っているように観察できます。

脳生理学者の説明によると、目的に関する情報は脳の前上方に、また手段とか意味の情報は脳の後下方にあるとされています。そうすると、上記の観察と仮説はこの脳生理学者達の説と一致してきます。

このことから、仮説的にPMDはこの脳の前後にある知識を紙の上に引き出す方法と解釈できるようになります。

さて、ここでこの事実と仮説を認めたといえますと、次に「それでは、頭を上へ先に振ったり、下へ振ったりする境界レベルがあるはずだが、それはなんだろうか？ どこにあるのだろうか？」という疑問が出てきます。

これがKEY WORDのレベルを表す脳の中の記憶レベルではないかと思われまます。

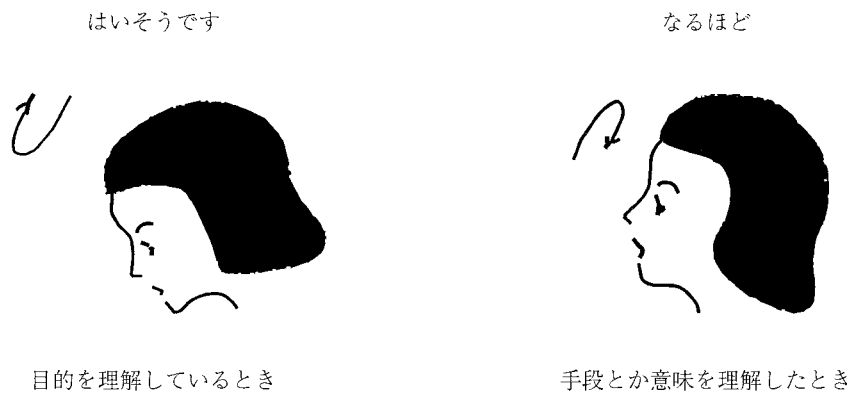
これは、私たちが、「あっ!! それだ」というKEY WORDの表現や、ほしいものずばりのことを聞いたときに思わず首を上下に振らずにやや前方に動かす現象に一致するように感じられます。

PMDの中でKEY WORDの表現を探すときに「その表現は不思議に中央あたりのレベルに見つかる」と言っているのは、脳の中にある以上のようなメカニズムを利用しているように思えます。

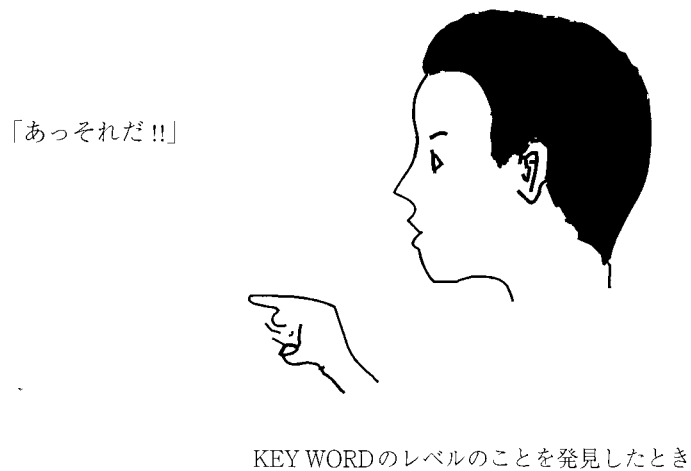
(注) 筆者は上記の仮説的な発表を文献に示す2つの学会で行ったときに、「なぜ」今までの学者はこの仮説に気がつかなかったのだろうかと言われました。

この原理は、現象を観めるときに「なぜ」の質問から観察せずに、「それは、何をするため、どのようにして起こっているのだろうか？」という質問と目で観察したからだと思えます。

挿話1の図1



挿話1の図2



<文 献>

- [1] Esaki M.; 「Sexual Difference Facts in Transmitting and Accepting of Image and its Practical Use For Creation」 3rd International Imaginary Conference、July 25 1987、at Fukuoka-City
- [2] 江崎通彦; 「イメージの受発信と思考の順序のくせについての性差事実とその創造的応用」
第9回日本創造全国大会 1987/10/18 東京都

挿話2

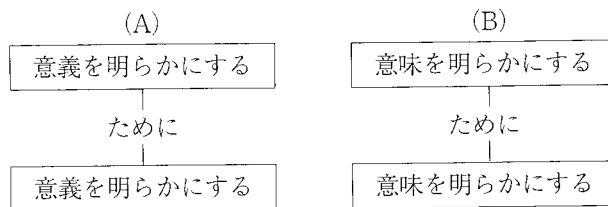
PMDは言語の研究にも使える

我われが日常なにげなく使っている言葉で、その使い分けに気をつけていないと、あいまいになってしまうものがある。

例えば「意義」と「意味」という言葉の違いを考えてみよう。

「これらの言葉の違いは？」という質問をすると、すぐには答えられずにとまどうことがある。この関係を明らかにする簡単な方法に、目的と手段のダイアグラムが使える。

ここでの2つの言葉を、次のように目的と手段のブロックダイアグラムの作成要領に従って「……するために……する」という言葉でつないでみるとどうなるだろうか。即ち、



とまず紙の上に書いてみる。

この(A)と(B)の表現を比較すると、(A)の方がよりびったりくる表現である。即ち、意義を明らかにするのが目的で、意味を明らかにするのが手段であることの関係がすぐ分かるようになる。

ところで、ここでもう一つの比較実験をしてみると次のようになる。

上に書いたと同じ内容を紙の上に書いてみる。

(A) 意義を明らかにするために意味を明らかにする。

(B) 意味を明らかにするために意義を明らかにする。

このように書いて読んでみると(A)もたしかに成り立つが(B)も成り立つように感じてしまう。意味ないしは文の意義をはっきりしようとして読む場合でも、先のプロックダイアグラムに書いた文を、読みとったときに感じる違いほどの感じの差を感じない。なぜだろうか？

比較してみると次のような観察となる。

1. (A)、(B)のケースは、いずれも文章の構成として成り立っているので、その正しさの方に目がいきやすいのに対して(A)、(B)のケースは、文章の構成というよりも思考の2元構造(文章の1次元構造に対してのイメージ)がよく見えるようになっている。
2. (A')、(B')の文章から(A)、(B)で感じたと同じような言葉の感じをとらえようとする、かなり眉間にしわを寄せて(脳の使い方をしぼって)読まなければそれらの関係をとらえることができない。

従って、以上のことから「……するために」という言葉でつなぐカードによる言葉の研究手法が、言葉の関係を明確にする手法にも有効に使えることが分かる。

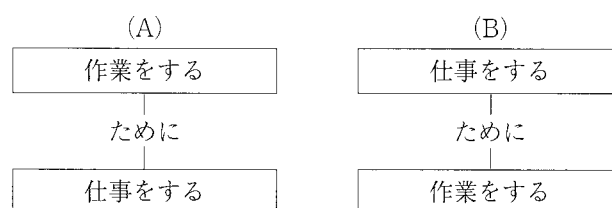
このようなことから、よく似た言葉でその関係を調べるためには、それらの言葉のどちらが目的の

意味に使われ、どちらが手段の意味に使われるのかを明らかにしていけばよく、新しい言語分析の便利な道具として目的と手段のブロック・ダイアグラムの方法が使えるといえる。そして、さらにこれを発展させれば、新しい「ことば」の創出も可能になる。

* PMダイアグラムとは、目的と手段のブロック・ダイアグラムのことを指す。PMとは、PURPOSE - MEASURE の略で、目的と手段という意味。

設問：下のどちらがぴったりとくる妥当な順序でしょうか？

(答えは挿話3の後に示してある)



挿話3

PMDは鶏と卵の関係も明らかにする

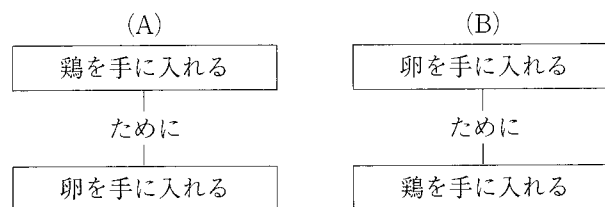
論議がぐるぐる回りを始めることを鶏と卵の関係に入るといふ。

あるものには因果関係があつて、どちらが先に来るかわからないものこのことをこのような表現でもいふ。

ここでは、鶏と卵の関係をある観点から解きほぐしてみよう。

ある観点とは、我々が鶏と卵を見たときの観点とすると、次のような表現に置き換えてみれるので、どちらが先にあるべきかがはっきりする。

即ち、まず、

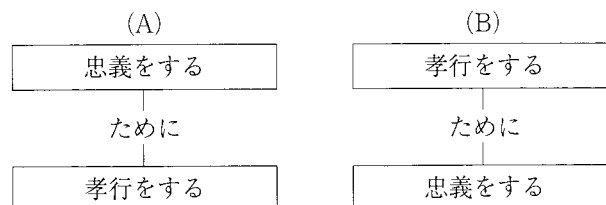


というPMダイアグラムの2つを作ってみる。この2つを比較してみると、結論として(B)の方が自然に思える。というのは、鶏の鶏と雌鶏を手に入れさえすれば、将来鶏も卵もふんだんに手に入れることが確実になるが、Aの卵のみを先に手に入れてもそれを暖める親鳥がいなくては鶏は生まれてこないし、保温器で暖めてみてもひよこがかえるかどうか、それも確実にないという感じの差があるからである。

そして、結果的に妥当なPMDは(B)の方の「鶏を手に入れる」という表現を「雄鶏 (ROOSTER) と雌鶏 (HEN) を手に入れる」という表現に置き換えて決着となる。

もう1つ、議論のぐるぐる回りを切り離し、どちらが大切か^(注)を判断する例をPMダイアグラムを使ってやってみよう。

昔から「忠ならんと欲すれば孝ならず、孝ならんと欲すれば忠ならず」というぐるぐる回りの議論がある。これをPMダイアグラムで切り離してみよう。



というA, B2つの表現を作って比較してみる。

比較してみるとAは成り立たないことが分かる。即ち、Bで忠義をして社会的に認められることが

親孝行の一手段であることを理解できる。この関係を明らかにすることができた後は、忠か孝かの二者択一に迫られるときの判断は容易になる。即ち、親孝行の方が目的として大切であり、一手段としての忠義は切り捨てることができるようになる。

*どちらが大切かという「ことば」の意味には、次に4つがあるので注意を要する。

- (1) 抽象的な上位目的として
- (2) 目的の結果として
- (3) まずなすべき手順の入り口作業として。
- (4) 目的の結果の要素での最も重みづけの多い要素として

挿話2の設問の答え； (B)